

# 瑞龍寺 花園会だより

## 第13号

(平成30年3月発行)

発行 大圓山 瑞龍寺花園会  
〒064-0802 札幌市中央区南2条西21丁目1-8  
電話(011)611-3228/FAX(011)613-8458  
編集責任者 花園会会長 長尾 章郎



瑞龍寺 山道

平成三十年度を迎えるにあたって

住職 皆川 彰久

檀信徒の皆々様ご清祥のことと存じ申し上げます。昨年来より例年になく厳しい寒さを迎えました。ようやく三月にも入り、穏やかな春になってきました今日この頃です。

毎年お寺の年中行事には大勢の方々が参加していただき仏縁に感謝申し上げます。しかしながら、この十年間現在の社会状況、家庭環境の激変によって寺の護持も変化しております。当山も恒例の新年、春秋、お盆の各法要はもとより、開山忌、梅まつり、各種法話会等様々に企画しておりますが、減少傾向にありつつあります。幸い毎日の坐禅会参加者はこの数年延べ人数六千人を維持しております。

今後お寺も環境整備を調えながら多くの方が来ていただけるよう当山役員と共に努力してゆく所存です。

歴史ある当山を今後とも御理解、御協力お願い申し上げます。

## 平成二九年十月十一日 秋季特別布教に参加して

責任役員 森 隆明

布教師・静岡県 地持寺住職 鮎川博道 師  
(前 花園会本部長)  
テーマ…おかげさま

四年間、全国に二七教区、三千三百五十寺ある本山に通い詰め、本部長の職をまっとうされてきたことを話され、やり遂げたことに感謝しているとのことでした。

何度かの海外布教に行ったときの話の中で、失敗談(ハワイでの)を披露されました。出発の前日、勢いよく痛飲したのがわざわいして、現地空港に着いた時は体調がすこぶる悪く、講演会場への途中、縁あって同席していた地元看護師さんが、師の目を見て、救急車で病院へ送ってくれました。数日間検査漬けで、無事釈放され、事を済ませて帰国してから、目を丸くする事が起ったのだそうです。それは現地で医療費の請求書でした。

英語で書いてあるので内容はよく理解できないのですが、数字だけはわかりました。金額を讀みとっているうちに大変な事だと途方に暮れたそうです。そうですす当時の為替レートでは一ドル百二十円ほどだったそうで、合計八万ドルの現実を知らされたのですから。やや一千万円の金額になったそうです。それである方に相談したところ、海外旅行時に便利な某カードがあると、カード一枚につき三百万円ほど補償され

るのだそうです。師は二枚持っていたので六百万円分は払わずに済んだそうです。でもまだ四百万円近くの残高があります。

折よく師の知り合いにそういうことに詳しい方がいらして、現地の方と掛け合い膨れ上がった請求金額を減額させることができたのだそうです。結果、師は殆んど支払わずに済んだとのことでした。

胸をなでおろすようなお話でした。日本の健康保険制度の有難さも再認識しました。

平成二五年六月二二日、天皇皇后両陛下が本山に参詣されたのだそうです。臨濟宗花園会ゆかりの「花園天皇」のご縁です。

全国三七万世帯の檀家がありますが、三千三百五十寺の十%は不住(住職不在)の寺で、一人で十カ寺を担当している方もいらっしゃるようです。宗教離れが顕在化している今、花園会の今後を自分たちの事として真剣に考えていかなければならないとおっしゃっておりました。

「当たり前」と思う事が間違いの根源。  
「失ってわかる」とも。

「御蔭様」、目には見えない向こうに大切なものがある。

木の根がなければ、幹も、葉も、花も、実もならないのです。

目には見えない向こうに大切なものがあるのです、とお話を締めくくられました。

## 北海道教区花園大会に参加して

井原 容子

平成二十九年十月三十(三十一)日、札幌ビューホテル大通公園に於いて、北海道教区花園大会が開催されました。今回は女性部の大会という事で、道内各寺院より住職・副住職の皆様を含み、女性部会員が大勢参集しました。

初日は開式のことばから始まり、献灯献花般若心経による本尊・開山・花園法皇諷経、会員先亡回向が行われ、花園会総裁代理の起龍軒老大師、加行礼拝御垂訓、大会委員長(花園会会頭) 船場一讓師の挨拶、北海道臨濟会会長、北海道教区花園会女性部長の挨拶で開会となりました。本年度は臨濟禅中興の祖「白隠禅師二百五十年遠諱」を記念して、一龍斎貞弥氏による「白隠禅師」の講談がありました。

お話の中にどんだん引き込まれ、その迫力に圧倒されてしまいました。その後、休憩をはさんで坐禅の時間となり、イス席での姿勢、呼吸の仕方など指導を受けました。

二日目は朝課(般若心経・開山回向)、朝食後写経をし、静岡県・地持院住職鮎川博道師の講話では「三宝の恩」「おかげさま」の心を過す大切なことを教えていただきました。閉会式を終え、二日間の日程を過ごせました。私は今回初めて参加させて頂きましたが、充実した日々となりましたことを感謝いたします。

平成二九年十一月二十三年  
開山忌法要・記念講演

大本山 妙心寺教学部長 野口 善敬 師

坐禅の作法は、宗派によつて異なり曹洞宗は壁に向かつて座り、臨済宗は壁を背に坐禅をするという基本のお話から始まり、仏教の五戒を人と動物との比較で ①殺生は引き分け ②物を盗まないことは人の負け ③ウソを付かない ④浮気をしない ⑤酒を飲む のいずれも人が動物に負けている。この五戒を他人の目や気にして守るのではなく、自分の心の中で守ることが大切であるという解りやすいお話があり、参加者約60名が熱心に聞きました。

なお、昨年からは瑞龍寺の皆川老師が本山妙心寺の教学委員に就任され、今後益々妙心寺の発展の為に努められると伺っております。



菩提寺から

この時期なりますと、お寺を利用し、泊りがけで新社会人、新入社員の研修会が行われます。礼儀など社会人としての基礎を学び、決められた規則に従い団体生活を過ごし、お勤め（お経）、坐禅、食事はお寺の作法で僧侶が指導します。非日常の環境下で短期間ではあります。が、貴重な時間を経験する。企業、修学旅行生、海外の観光客など対象に、今このような研修会が宗派問わず全国的に開催されております。

「白隠の言葉」

禅の修行では、静かな禅堂で坐禅に励む「静中の工夫」を大切にすることももちろんですが、作務（掃除などの労務）の「動中の工夫」もとても大切にされています。禅の祖録の中に「歩く



のも禅、坐るのもまた禅（行もまた禅、坐もまた禅）」とあります。禅の修行に坐禅と作務の区別はなく、坐禅で培った力を、日常生活、そのものに活かしていくところに禅の根本があります。臨済禅の中興の祖とされる白隠禅師の有名な言葉、「動中の工夫は静中の工夫に勝ること百千億倍」とあります。禅僧にとっては、日常生活の全てが修行の場であり、私たちが日常生活に於いても、いつの間にか仕事やそうでない物事に優先順位を決めてしまっていますが、どちらも一心に励むことが大切ではないでしょうか。

## ❀❀ 平成30年度 瑞龍寺行事予定 ❀❀

開催日時			行事の内容
4月8日	(日)	13時	花祭り法要・法話
5月18日	(金)	10時	開山忌・梅祭り
8月19日	(日)	11時	お盆・施餓鬼法要
8月25日	(土)	午前	永代供養法要 ※栽松塔納骨者
9月予定		午前	秋の彼岸法要
10月11日	(木)	午後	秋季特別布教
2019.1月6日	(日)	13時	大般若法要
3月予定		午前	春の彼岸法要

※他の法要の都合により日時が変更する場合があります。

### ○編集後記○

「瑞龍寺 花園だより」第13号をお届けします。今冬の日本列島全体は数年ぶりの寒冷と記録的大雪に見舞われました。しかしこの気候には、日本列島に限ったことではなくユーラシア大陸や北米大陸もかなり苦しめられているようです。地球温暖化と関係のある現象なのでしょう。とはいえ、幸いなことに瑞龍寺での降雪・積雪は例年よりも少ないぐらいで、あまり除雪には苦勞しませんでした。しかし、夏にゲリラ豪雨などのお返しが無いように願いたいものです。

一名欠員であった評議員を永野雅三さんにお願ひ致しました。どうぞ宜しくお願いいたします。

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
23回忌	平成8年
27回忌	平成4年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年

【平成30年 年忌表】  
土日は混み合います。年回忌にあたる方は、お早めに問い合わせて下さい。

### 新しく評議員に成られた方



井原 容子



森本 達也



永野 雅三